

観点・小問ごとの分析	対策の視点
<p>四、語句の組み立てがわかる</p> <p>1 同意語「皮革」をさしているのに、対語の「天地」を記入したり「悲鳴」を同意にとらえたりして正答率が36%と低くなっている。</p> <p>2 下から上へ読むと意味がわかる熟語はよくできている。しかし、上から下へ読むと意味がわかる「黒板」や「新年」との混同がみられた。正答率は、62%である。</p>	<p>。この問題は、漢字が正しく読め、ひとつひとつの熟語の意味がわからないとできない。しかし、児童は、熟語そのものを正しく読めなくとも、字形から言葉の意味を感じとっている。教材の中の必要な語句の組み立ての指導をはじめ、複合語などのような語句の構成の指導が大切であろう。</p>
<p>観点③（語句を読む）について</p> <p>語句の意味や使い方は、文脈に即して指導することが原則である。たとえば、「原因」の意味を文脈にそって理解させるとともに、その対語としての「結果」もとりあげていくような指導をしていくべきであろう。</p> <p>また、系統的・段階的・体系的な指導の必要性は、国語教育すべての分野に共通するところである。語いや漢字の指導においては、特に配慮したい。正答率62%である。</p>	
観点・小問ごとの分析	対策の視点
<p>④ 語句を書く</p> <p>一、文章の中で語句を正しく使う</p> <p>1 「スピードを制限している」は82%とよくできている。誤答のほとんどは「禁止している」としている。</p> <p>2 設問の中のそれぞれが、にかよって読めるせいか、正答率59%と1にくらべて劣る。</p>	<p>。1についての問題点は少ないが、2のような場合、その語句が、文脈の中でどのような役割をになっているかを考えさせ、その様子を想像させることによって、適合した語句を選び出せるようにする。さらに、似た事物を示すにも、言葉が異なると、そこに微妙な感覚の違いがあることを、実例をあげながら理解させるようにしたい。</p>
<p>二、文章の中で語句を正しく使う</p> <p>1 「うわさがたつ」という意味のとらえ方は大変よくできている。（正答率87%）</p> <p>2 「煙のたっている」では「上にあがる」と「まっすぐになる」との混同がみられる。（正答率70%）</p>	<p>。国語辞典を利用する場合は、文脈にそった語句の意味を見つけることが大切である。それだけに文章を初めから終わりまでよく読んで、全体の感じをとらえさせ、さらに語句の意味をとらえるよう指導する必要がある。</p>